

公益財団法人 博報堂教育財団

博報堂教育財団は、児童に対する国語教育と視覚・聴覚障がい者に対する教育を助成し、併せてその活動に関する調査を行うことで、健全な人間形成に寄与することを目的に、1970年に財団法人博報児童教育振興会として誕生しました。2011年に公益認定を受け、2020年に現在の名称に変更しています。優れた教育実践を顕彰するために創設された「博報賞」をはじめ、「児童教育実践についての研究助成」「教職育成奨学金」を基幹事業とし、「子ども」「ことば」「教育」の領域において、「日本語交流プログラム」「社会啓発事業」「日本語教育プログラム」「調査研究事業」「大規模災害時支援事業」などの活動を行っています。

詳細 ▶ [WEB](#) 博報堂教育財団

博報賞

児童教育現場の活性化と支援を目的として、財団創立とともにつくられました。「国語教育」「特別支援教育」「国際文化・多文化共生教育」など6つの領域において、教育現場で尽力されている学校・団体・教育実践者による波及効果が期待できる草の根的な活動と貢献を顕彰しています。また、その成果の共有と、活動の継続・拡大の支援も行っています。

教職育成奨学金

小学校教員、特別支援学校教員、中学校・高等学校の国語科教員を目指す学生を対象に奨学金を給付しています。2024年度は、全国から96名が採用され、総勢253名の奨学生が在籍しています。また、教員になってからも続くネットワーク構築のため、集合研修や地域別交流プログラムを定期的に開催しています。



全国の奨学生が集まり議論を交わす集合研修

大規模災害時支援事業

「令和6年能登半島地震」で被災された石川県の6市町に対し、“学びの復旧および復興”を目的として総額4千万円の支援金を交付しました。

日本語教育プログラム

当財団では、海外での事業の目的を「海外の子どもたちへの日本語教育」に置いています。タイにおいては、タイ教育省、在タイ日本国大使館、国際交流基金などの協力を得て、日本語教育プログラムを2021年度から実施しています。タイで日本語を学ぶ学生は18万人強、日本語の教員は2千名を超えている中、事業開始時から行っているのが、現地の日本語教員の研修事業です。公募から選抜された約30名の教員を対象に、毎年4月に3週間にわたって日本での研修を実施、帰国後も日本で学んだことをベースに自分の学校などで教育実践を重ね、翌年2月に行われるフォーラムでの発表に向けて、継続して学びを深めていきます。2023年度からは、日本語教育のための教材づくりにも着手しました。タイの日本語教科書のデジタル化や、日本文化や優れた日本語教育実践の映像化などを進め、研修受講生のみならず、タイ全土の日本語教育の質の向上を図っています。2025年2月には、こうした一連の活動を紹介する記者発表会をバンコクで開催し、日本語教育の輪をさらに広げています。



研修成果発表会



研修テーマの1つである防災体験